

科目名（英文表記）	ビジネスワークショップ（Business Workshop）		
科目区分	ビジネスワークショップ	単位数	2 単位
担当教員名	旗本智之・猪口純路・内田純一・ 小林敏彦・玉井健一・手島直樹・ 井馬智行（非常勤講師）・李濟民 （非常勤講師）	ナンバリング	MBA_W_BW 6511
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： 本授業はこれまで履修した授業科目、とりわけ実践科目で習得した知識とスキルを総合的に駆使して、個人レベルでケース分析、ビジネスプラン作成あるいは技術シーズの事業化構想を行うことにより、より体系的な分析能力を向上させることを目的とする。授業におけるディスカッションを通して、各個人のケース分析、ビジネスプラン、事業化構想の成果物を練り上げることに重点を置く。ここで作成したケースレポート、ビジネスプランまたは事業化構想の成果物は「リサーチペーパー」での発表を経て、最終レポートとして提出される。到達目標はこれまで学んだ知識やツールを的確に使用し、MBAディグリーホルダーに相応しい最終レポートを仕上げることにする。			
使用教材： 参考文献：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング（改訂版）』同文館出版、2012年。 小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析（三訂版）』同文館出版、2020年。 小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング手法』、2010年。 上記以外の参考文献については、授業において、適宜、紹介する。			
成績評価の方法： 以下の点に基づいて成績評価を行う。 課題 60%（最終レポート及び事後課題） 授業への参加度 40%（発表・ディスカッション等） なお、評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。			
履修上の注意事項： ① 実践科目を履修済みであること。 ② 5時限を超えて欠席すると自動的に不可となる。 ③ 定期試験の時間分を含めた形で行うため、モジュール4の授業は通常通り、10:30～17:40の時間帯で行う。 ④ 課題の締め切りおよび守秘義務は厳守とする。 ⑤ 技術シーズの事業化構想はビジネスサポート研究会としてプロジェクトベースで進められていく。プロジェクトの結成などについては別途manabaを通じて周知する。			

本科目は文部科学省からの委託事業「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」における神戸大学・和歌山大学との共同プログラム「地域/社会課題を解決する対話型ビジネス価値共創人材養成のための価値創発から社会実装までの一貫教育プログラム」の適用科目の一つであり、3カテゴリーのうちプロジェクト科目群に属します。なお、本プログラムを修了するためには3カテゴリーから1科目以上を履修し、合計10単位以上を修得する必要があります。